

**会 報**  
**栃木県中学校長会**

昭和51年度 栃木県中学校長会

運営方針ならびに重点目標

○ 運営方針

会規約第3条本会の目的に則り学校教育の振興充実を図るとともに、いっそう義務教育尊重の気風を高揚し、もって教育栃木の建設にまい進する。

そのために

- 1 会員相互の共通理解を深め、教育の正常な推進を図る。
- 2 組織的な研修活動を活発にし目的達成に努める。
- 3 教育関係諸機関、諸団体との連絡を密にし活動を展開する。

○ 重点目標

- 1 会員の研修活動の推進
  - (1) 専門職にふさわしい組織的研修活動
    - ア 使命感の確立、深化
    - イ 学校経営諸問題の研修
  - (2) 近代的な学校経営についての研修  
(教育課程の研究を含む)
- 2 教職員の人材確保対策の推進
  - (1) 教職員の適性配置
  - (2) 教職員の待遇ならびに勤務条件の改善
  - (3) 教職員養成制度の改善
- 3 義務教育尊重の気風の高揚
  - (1) 教職員の勤務意欲の高揚

- (2) 教育予算の増額
- (3) 現行標準法の改善のための運動
- (4) 県単職員の増員
- 4 生徒の福祉条件の充実促進
  - (1) 健全な校外活動推進のため施設設備の拡充
  - (2) 生徒の体育活動充実のための補助金の増額
  - (3) 交通安全施策の改善充実
  - (4) 望ましい家庭教育の普及ならびにPTAとの協力
- 5 公立高等学校増設の推進と入試制度の研究
- 6 私立高校への県費補助の増額
- 7 教育会館移転建設の促進
- 8 中学校教育30周年記念事業の推進

本会運営について

- 1 県中学校長会総会(一条中学校)
 

5月 8日(土)
- 2 理事会・協議員会
  - ① 理事会・協議員会 4月16日(金)
  - ② 定期総会 5月 8日(土)
  - ③ 理事会・合同専門部会 6月 1日(火)
  - ④ 理事会 10月 5日(火)
  - ⑤ 理事会・協議員会 1月<sup>21日(金)</sup><sub>22日(土)</sub>
  - ⑥ 理事会 2月28日(月)
- 3 専門部会(各部必要に応じて)
- 4 全日本中学校長会総会(東京)
 

5月24日(月) 25日(火)
- 5 全日中役員研修会(東京)
 

7月30日(金) 31日(土)
- 6 第28回関東甲信越地区中学校長研究協議会(上越市)
 

6月17日(木) 18日(金)
- 7 全日本中学校長会長崎大会
 

10月14日(木) 15日(金)
- 8 義務教育振興大会
 

1月10日(月)



昭和50年度会務報告

期日	場所	会議名	要 項	参加者
50, 4, 17 (木)	宇 一条中	理事研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・49年度会務報告 ・49年度決算報告</li> <li>・50年度活動方針 ・50年度予算</li> <li>・定期総会準備</li> <li>・関プロ大会組織メンバーの変更・研修内容及び進行状況</li> <li>・50年度役員について</li> </ul>	理事 32名
50, 4, 17 (木)	宇 一条中	理事協議員 研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・49年度会務報告 ・49年度決算報告</li> <li>・50年度活動方針 ・50年度予算</li> <li>・定期総会準備</li> <li>・永年勤続者表彰について</li> <li>・全日中総会 関プロ出席者確認等</li> </ul>	理事 協議員 45名
50, 5, 10 (土)	宇 一条中	定期総会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・永年勤続者表彰</li> <li>・49年度事業, 決算報告</li> <li>・新役員選出</li> <li>・50年度事業計画, 予算案</li> <li>・関プロ担当議題の発表研究</li> <li>・第27回関プロ栃木大会準備委員会</li> </ul>	全 会 員
50, 6, 3 (火)	宇 一条中	理事研修会 専門部会 合同会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標の推進について</li> <li>・専門部事業計画</li> <li>・関プロ栃木大会事前研究</li> </ul>	理事 専門部員 88名
50, 6, 19(木) ～ 6, 21(土)	宇 栃木会館他	関プロ中学校 校長研究協 議会栃木大 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会務報告 49年度決算 50年度予算</li> <li>・各県状況報告</li> <li>全体協議会</li> <li>分科会</li> </ul>	全 会 員
50, 9, 4 (木)	宇 一条中	理事研修会 (臨時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関プロ栃木大会の反省, 大会決算, 組織解体について</li> <li>・高校入試改善について</li> <li>・全日中長崎大会について</li> </ul>	理事 30名
50, 9, 17(水) 9, 19(金)	北 海 道 函 館	第26回 全日中総会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・50年度の運営活動方針等の協議</li> <li>全体協議会</li> <li>分科会</li> </ul>	36名
50, 10, 7 (火)	宇 東洋信託	理 事 協 議 員 研 修 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関プロ栃木大会決算について</li> <li>・義務教育振興協議会運営について</li> <li>・義務教育振興のための陳情について</li> <li>・教育課程の改訂について</li> <li>・関プロ新潟大会参加について</li> </ul>	理 事 協 議 員 40名

期日	場所	会議名	要 項	参加者
50, 12, 1 (月)	宇 一条中	理事研修会 (臨時)	・全日中長崎大会第6分科会の提案司会について	24名
51, 1, 23(金) 1, 24(土)	塩 原 町	理事, 協議 員合同研修 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・51年度の本案の運営について</li> <li>・各専門部活動状況報告</li> <li>・全日中総会の参加</li> <li>・関プロ新潟大会の参加について</li> </ul>	理 事 協 議 員 25名
51, 2, 28 (土)	宇 一条中	理事研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関プロ, 全日中情勢報告</li> <li>・51年度の運営方針・重点目標</li> <li>・51年度の経理について</li> <li>・51年度の組織づくり</li> </ul>	理 事 28名

昭和50年度専門部活動

1 調査部

- 1 調査専門部会 昭50, 6, 3 於一条中
- 2 活動状況  
全日中調査部の調査と連携して本県教育の実態を明らかにし, また, 県中学校長会, 各専門部の活動に対し資料を提供した。特に本年は関プロ中学校長会栃木大会の開催にあたり, 運営, 研究に対し活発な活動を展開した。

3 調査内容

- (1) 昭50, 4, 19 全日中調査
  - ・中学校学校数・学級数・生徒数・教職員数の増減状況
  - ・昭50年度教育費(都道府県負担)
  - ・教育平均給, 初任給, 教員1人当りの旅費
  - ・公立中学校の学級数別教員定数 ・退職校長
  - ・高校入試制度 ・寄宿舎に関する調査
- (2) 昭50, 6, 30 全日中調査
  - ・教員の資質向上について ・教員の待遇調査
  - ・過当持時教 ・担当教科免許外教科担当状況
  - ・教育課程に関する調査
  - ・公立中学校長年令別人数 ・校長の待遇
  - ・校長, 教頭選考制度等調査 付校長教頭現在数
  - ・小中高校教員の需給状況
  - ・学校給食に関する調査 ・特殊学級調査
  - ・小中学校教員に対する都道府県教委の異動方針
  - ・へき地の学校教育に関する調査
- (3) 昭50, 1, 2, 1 全日中教育制度対策部  
教員養成制度の改善についての調査 (抽出)

2 研究部

研究部は, 前年度の研究成果の上に立って, 引き続き第27回関プロ中学校長研究協議会栃木大会の成功のために, 総力を結集してこれが実現に精力的な活動をすすめてきた。またこの大会の成果が直接全日本中学校長会北海道大会に影響をあたえることを考慮して, これとの関連を図りながらその巾と深さを追求し, 各テーマの究明に当たった。

栃木大会の全体協議題ならびに各分科会の研究協議題については, 各担当郡市において, それぞれ研究部を中心にして連日全会員による協同研究がすすめられた。その貴重な成果が栃木大会に光彩を放ち実を結び所期の目的を完遂することができた。

発表を担当された校長各位と研究に尽力された全会員に対し深じんな敬意と感謝の意を表する。栃木大会の研究協議のテーマは, 今後も継続的

に究明されるべきであろう。「ひとりひとりが豊かに伸びる中学校教育に…」においては、神奈川県大会の「豊かな人間」から一段と発展深化のあとを示した。「ひとりひとり」は、全日中のかかげる人間尊重の理念を表し、「豊かに」は、人間性はもちろん、知的な面でも豊かな人間的感受性を育成することを強調し、「伸びる」は、生徒の学校生活への主体的な取り組みを期待し、生き生きと学習する意欲を育てる場としての学校教育のあり方を具体的に追求した。

21世紀に生きる人間像を次のように明らかにした。(1)自主的・主体的人間 (2)豊かな情操と人間性の豊かさ (3)幅広い価値観に対する理解力と世界に開かれた日本人。

21世紀に生きる人間を育成する中学校の役割においては、生涯教育論的観点にたつて、新しい学校観の確立が求められ、生徒の学習は、「学ぶことを学ぶ」ことに主眼をおくこととした。

今後当面の研究課題としては次のことが考えられる。(1)複雑多岐にわたる学校運営の責任者としての校長職のあり方。(2)スポーツの急激な振興にともない学校体育と教育スポーツの正常な運営について。(3)行事の調整について。(4)関西修学旅行の検討。

### 3 編集部

1 6月3日 一条中学校において専門部会を開き次の通り役員、編集方針等を決定する。

(1) 部長 小林 茂(姿川中)

副部長 金田梧楼(田原中)

桑島得二(日光東中)

全日中編集副部長 小林 茂(姿川中)

(2) 昭和50年度 編集部方針

・ 会報は中学校長会の機関紙であるから、その趣旨に則って編集する。

・ 会報の発行は年3回とする。

第1回 5月(栃中長運営方針・重点目標、予算決算、会員名簿)

11月(関プロ大会会計決算書、関プロ新潟大会実施要項)

・ 全日中の編集部活動に協力する。

### 2 全日中編集部への協力

全日中編集活動への協力については、毎月1回上京し、機関紙「中学校」の編集に当たった。本委員会からは、2月1日本会報に掲載したとおり河内教育事務所長河又英一氏(現義務教育課長)大田原中学校長植竹幸重氏から執筆をいただき、さらに、元県教育長鈴木幸吾氏からも玉稿をいただき4月号を飾ることができた。なお、編集子としても12月号(決断の条件)2月号(時の話題)5月号(授業、人間について)などを執筆して積極的に「中学校」の充実に努力してきた。

### 4 職員対策部

本年度本部会の事業は次のとおりである。概観すると前半は第二次人確法対策についての意見の交換を主とし、後半においては理事協議会より付託を受けた主任制の問題についての研究討議が大半をしめしました。その間各地区委員の方々の熱心な研究は部会の活動を一段と実のあるものに育てていただきました。深く感謝いたします。

1 6月3日 一条中において専門部会を開催部会の初顔合せを実施、全委員の集合はできなかったが、部会の組織について協議、確認した。

部会長 鈴木 信 旭中

副部会長 藤掛良一 田沼西中

全 大谷晃一 古里中

2 7月4日 3月17日以降の各県における人事委員会勧告、条例化、実施状況等の進展状況調査に回答

3 7月5日 旭中校長室において部会を開催

イ 各地区、各県の情報交換

ロ 本部会の位置付けと任務について共通理解

ハ 本年度の活動

4 8月9日 山口県より人確法第二次給与改善等に関する調査に回答

5 8月5日 旭中校長室において部会開催、次のことについて協議した。

イ 各県の情報、特に人確法の実施状況

ロ 第二次勧告

ハ その他(勤務特昇の再検討・通勤困難地における自家用車の利用・永年勤続年限を30年と

すること。無免許運転の現状について)

6 1月31日 旭中校長室において、過日会長より付託された主任制に対する中学校の態度について研究討議、会長に答申

7 2月10日、3月12日 宇都宮市立西小学校において、義務教育課と小・中学校代表者との懇談会に会長、副会長、事務局長、と共に部会長、藤掛副部会長出席、中学校側の意見として部会での研究結果について説明 答申

8 3月15日 全日中給与対策部からの50年度一般入職並に当面する問題についての調査に回答

### 5 進路対策部

昭和50年第1回の部会で、進路に対する適正な指導と、生徒、保護者の希望、との相違を検討し、適切な進路指導の対策ができるような研究を進めて見ようとの意見にもとづきそのための資料を得るための調査を行った。合せて県立高等学校入学者選抜の方法等についても研究を進めた。

※ 研究の内容

#### 1 調査の概要

調査事項の検討結果は別に印刷されるが、大要は次のようなことである。

・ 生徒が希望する職業と保護者の希望する職業の相違とその理由を知るための調査

・ 生徒が進みたい上級学校の段階(大学以上、短大(高専)まで、高校まで・中学でよい)と保護者の進ませたい上級学校の段階の違いを知るための調査

・ 上級学校進学の場合、学科選択の状況とその理由調査

・ 高等学校の普通科、職業科増設に対する意見調査(普通科を増設する、その理由、職業科を増設する、その理由)

・ 上級学校進学にあたり、重視している点についての調査(適性・成績と能力・大学への進学率・伝統と校風・通学の便利さ・経済条件・教師の指導意見・等)

#### 2 県立高等学校の選抜方法

県立高等学校の選抜方法については、関係の機関団体でも慎重に研究を進めているが何れも

長短があるので、選抜方法について、各県の状況等について県教育委員会高校教育課関係主事を囲んで、次の点について懇談した。

・ 学区制、学校群制、単独選抜、合同選抜、総合選抜、等について各県の実施状況とその長短所、

・ 学力検査(実施教科・調査書・実施期間、等)

・ その他、面接・健康診断・推選制等 進路対策についての研究範囲は広く、生徒の人生を決定するだけに問題点も多いわけだが、50年度の研究が今後の研究の基盤となれば幸いである。

### 6 修学旅行部

昭和50年度の修学旅行は、各位のご指導とご協力により仕事が進められ、大過なくすごすことが出来ましたことは、ともども生徒のため喜びにたえません。

昭和50年度部会の活動は次のとおりです。

#### 1 4月26日 関修委

昭和50年度の諸問題、必要な連絡事項につき各県の問題を出しあい検討。

2 5月24日 栃木県中学校修学旅行部研修会、修学旅行の列車時間つなぎ等について検討する。関係交通業者等にたいし要望をする。

3 6月24日～6月25日 3地区修学旅行打合せ会が鳥羽市において行なわれ、次のことが相談され各県にもちかえり報告、実施することになり実施された。

実態調査～本県から18校を選出、お願いをする。

#### 4 7月16日 関修委

51年度新幹線専用列車割付け

東北線関係つなぎ列車増強要望。

#### 5 9月9日、関修委

国鉄にたいして要望書を作成、陳情をする

近畿の旅、各地区(各県)の改訂について

6 9月30日 栃木県中学校修学旅行部研修会、上記の列車時間、実態調査、要望等について検討するとともに本県としての修学旅行についても話し合いをする。

#### 7 10月21日 関修委

早い列車と遅い列車について、校長現地研修会、

修学旅行について研究発表会等についてと、教師としての修学旅行の考え方、生徒の作文につき検討をする。

8 昭和51年2月10日、栃木県中学校修学旅行部研修会

10月21日の開修委の問題を検討、会費の問題についても話し合いをする。昭和52年度の修学旅行列車希望調査、割付けの基本方針の検討もあわせて実施。

7 福利厚生部

昭和50年度福利厚生部会の活動について次のとおり報告いたします。

1 5月10日(土) 総会当日、専門部所属の決定

2 6月3日(火) 部会を開催し、役員を選出  
昭和50年度の事業計画ならびに予算、決算の審議を行ない承認される。

3 8月17日、18日 全港堂社長、編集課長を招き、生徒手帳の編集を行なう。(藤原町)

4 10月7日(火) 交通安全読本に代わる安全教育読本栃木県版の採用について審議

5 11月26日 安全教育読本栃木県版内容及び統計表等の収集検討

6 12月 生徒手帳(金港堂) 安全教育副読本(東京書籍) 道徳副読本(栃木県版 文教社刊)の採用購入について各校にあっせんする。

7 51年1月16日 部会、副利厚生部会の活動について反省

上記の三点の書籍については、いずれも栃木県中学校長会が発行者になっておりますので、内容をご検討の上、多数ご採用くださることをお願いいたします。

昭和51年度県中学校長会役員(案)

会 長	鈴木 信	(旭 中)
副 会 長	築 竹 治	( 芳 )
"	植 竹 幸 重	(那 北)
"	須 藤 裕 裕	(足 利)
"	篠 原 俊 雄	( 宇 )
幹 事	和 気 政 夫	(船 生 中)
"	平 岡 芳 次 郎	(小 山 二 中)
"	荒 川 正 男	(明 治 中)
事 務 局 長	小 川 禎 三	(陽 南 中)
事 務 局 次 長	上 野 政 司	(陽 東 中)
"	赤 石 沢 一 朗	(豊 郷 中)
会 計 部 長	栗 原 和 友	(清 原 中)
庶 務 部 長	森 永 信 雄	(雀 宮 中)
会 計 部 員	谷 田 部 康 幸	(晃 陽 中)
"	柳 田 明	(国 本 中)
庶 務 部 員	増 渕 重 雄	(泉 が 丘 中)
"	谷 沢 八 郎	(横 川 中)
"	飯 野 昭	(城 山 中)
事 務 局 職 員	稻 葉 武 男	(旭 中)
"	築 島 知 子	(旭 中)

昭和51年度全日中長崎大会参加者名簿一覧

S 51, 10, 14~15

№	氏 名	所 属 校	№	氏 名	所 属 校
1	鈴木 信	宇①旭 中	15	長 浜 精	小③間々田中
2	小川 禎三	宇④陽 南 中	16	君島 光夫	下⑥石橋中
3	森永 信雄	宇⑥雀 宮 中	17	鈴木 忠一	下⑤大平中
4	渡辺 大三郎	宇⑦泉が丘中	18	和気 政夫	塩④船生中
5	渡辺 正利	河⑤古里中	19	菅又 隆典	塩②北高中
6	田村 政夫	上①粟野中	20	桜井 宣男	那⑦大田原中
7	栗原 光男	鹿②北 中	21	金沢 久衛	那⑤黒羽中
8	桑島 得二	日④日光東中	22	渋井 敏郎	那②芦野中
9	平沢 勉	鹿⑤西 中	23	山口 正尚	那⑧境 中
10	宮沢 正夫	鹿⑧板 荷 中	24	小高 博	佐③城東中
11	横田 正一	真⑥山前中	25	小竹 正美	佐⑥西 中
12	綱川 水雄	芳⑥物部中	26	藤掛 良一	安②田沼西中
13	橋本 久郎	芳③七井中	27	須藤 裕	足⑦第三中
14	臼井 弘典	栃⑦東 中			

昭和50年度栃木県小中学校長慶弔会決算書

1 収入額	1,948,054円
2 支出額	1,669,710円
3 残 額	278,344円

収入の部

項 目	決 算 額	付 記
1 繰 越 金	167,699	
2 会 費	1,773,000	3,000円×591人
3 雑 収 入	7,355	預金利子
合 計	1,948,054	

支出の部

項 目	決 算 額	付 記
50年度退会者記念品代	742,000	銀 盃 510,000 記念品 232,000
永年勤続者記念品代	123,000	3,000円×41人
教育功労者表彰記念品代	80,000	5,000円×16人
見 舞 金	75,000	火災見舞 30,000 病氣見舞 5000円×9人
海外事情視察者餞別金	140,000	10,000円×14人
弔 慰 金	460,000	20000円×3人(配偶者) 10000円×4人
花 輪 代	38,000	10000円×3人 8000円×1人
文 部 大 臣 表 彰	10,000	5,000円×2人
通 信 料	1,710	
合 計	1,669,710	

残 額 278,344円

左記のとおり決算報告いたします

昭和51年3月31日

栃木県小中学校長慶弔会会長

廻谷三郎

監査報告

監査の結果証ひょう書類等整備

され誤算のないことを認めます

昭和51年4月16日

於 宇都宮市立一条中学校

県中学校校長会監査

二宮町立物部中学校長

網川水雄

元黒磯市立鍋掛中学校長

松本和

元足利市立協和中学校長

国井未子男

昭和50年度栃木県中学校長会会計決算書

1 収入 2,184,815円  
 2 支出 1,848,041円  
 3 残額 336,774円 (次年度繰越)

収入内訳

項目	予算額	収入額	比較		摘要
			増	減	
1 会費	1,764,000	1,764,000			6500×168 4000×168
2 繰越金	158,934	158,934			
3 雑収入	200,000	261,881	61,881		利子その他
計	2,122,934	2,184,815	61,881		

支出内訳

項目	予算額	支出額	比較		摘要
			増	減	
1 会議費	150,000	149,970		30	
(1) 総会費	40,000	40,000			総会補助
(2) 会議費	110,000	109,970		30	理事協議会専門部会等
2 事務局費	901,000	842,016		58,984	
(1) 事務費	130,000	129,950		50	通信費 消耗品代
(2) 事務局職員手当	620,000	562,300		57,700	事務職員給与手当
(3) 旅費	151,000	149,766		1,234	全日中関プロ理事会監査旅費
3 事業費	462,000	292,255		169,745	
(1) 研修費	90,000	84,755		5,245	研修費
(2) 刊行費	260,000	95,500		164,500	会報(3回分)
(3) 専門部費	112,000	112,000			16,000円×7
4 分担金	504,000	504,000			
(1) 全日中分担金	420,000	420,000			2,500円×168
(2) 関プロ分担金	84,000	84,000			500円×168
5 積立金	28,000	28,000			
(1) 積立金	28,000	28,000			積立金(職員退職積立)
6 雑費	32,000	31,800		200	
(1) 雑費	32,000	31,800		200	広告 光熱費
7 予備費	45,934	0		45,934	
(1) 予備費	45,934	0		45,934	
計	2,122,934	1,848,041		274,893	

差引残金 336,774円は次年度へ繰越します。

昭和51年3月31日

栃木県中学校長会長 廻谷三郎 印  
 " 事務局長 篠原俊雄 印  
 " 会計部長 渡辺大三郎 印

監査報告 栃木県中学校長会 昭和50年度分会計監査の結果、証憑書類、諸帳簿等正確に処理されていることを確認いたします。

昭和51年4月9日

監査 国井未子男 印  
 綱川水雄 印  
 松本和 印

昭和51年度栃木県中学校長会会計予算書(案)

1 収入 2,279,774円  
 2 支出 2,279,774円

52年度  
 全国 1,000  
 関 300  
 旅 1,000  
 私 1,000  
 +7,300  
 10,500 + 7,300 = 13,800

収入内訳

項目	51年度 予算額	50年度 予算額	比較		摘要
			増	減	
1 会費	1,743,000	1,764,000		21,000	6,500×166...負担金 4,000×166...私費
2 繰越金	336,774	158,934	177,840		
3 雑収入	200,000	200,000			利子および福利厚生部より
計	2,279,774	2,122,934	156,840		

支出内訳

項目	51年度 予算額	50年度 予算額	比較		摘要
			増	減	
1 会議費	160,000	150,000	10,000		
(1) 総会費	50,000	40,000	10,000		総会補助
(2) 会議費	110,000	110,000			理事協議会専門部会等
2 事務局費	920,000	901,000	19,000		
(1) 事務費	150,000	130,000	20,000		通信, 消耗品費
(2) 事務局職員手当	620,000	620,000			事務職員, 給与手当
(3) 旅費	150,000	151,000		1,000	旅費
3 事業費	592,000	462,000	130,000		
(1) 研修費	100,000	90,000	10,000		研修費
(2) 刊行費	380,000	260,000	120,000		会報, 記念誌印刷
(3) 専門部費	112,000	112,000			16,000×7
4 分担費	498,000	504,000		6,000	
(1) 全日中分担金	415,000	420,000		5,000	2,500×166
(2) 関プロ分担金	83,000	84,000		1,000	500×166
5 積立金	30,000	28,000	2,000		
(1) 積立金	30,000	28,000	2,000		事務職員退職金積立
6 雑費	32,000	32,000			広告, 借用, 燃料代
(1) 雑費	32,000	32,000			
7 予備費	47,774	45,934	1,840		
(1) 予備費	47,774	45,934	1,840		
計	2,279,774	2,122,934	156,840		

栃木県中学校長会退会者

○退職によるもの(27名)

- |    |       |    |       |
|----|-------|----|-------|
| 1  | 廻谷三郎  | 宇  | 陽北中   |
| 2  | 小池元正  | 宇  | 陽南中   |
| 3  | 大谷晃一  | 河  | 古里中   |
| 4  | 愛波正雄  | 上  | 鹿東中   |
| 5  | 塩入安三郎 | 上  | 鹿西中   |
| 6  | 木村光明  | 上  | 北犬飼中  |
| 7  | 松本順   | 上  | 今市中   |
| 8  | 福田良比古 | 上  | 中宮祠中  |
| 9  | 岩崎正三郎 | 芳  | 茂木中   |
| 10 | 壺田和夫  | 芳  | 益子中   |
| 11 | 大木義雄  | 栃  | 吹上中   |
| 12 | 荒井力   | 栃  | 東陽中   |
| 13 | 星野卯養  | 小  | 小山中   |
| 14 | 福田幸郷  | 下  | 稲葉中   |
| 15 | 横山一男  | 那北 | 川西中   |
| 16 | 池沢栄次  | 那北 | 高久中   |
| 17 | 松本和   | 那北 | 鍋掛中   |
| 18 | 小林剛   | 那北 | 西那須野中 |
| 19 | 近藤恵仁  | 那北 | 伊王野中  |
| 20 | 三尾谷寛  | 那南 | 烏山中   |
| 21 | 佐藤喜平  | 那南 | 下江川中  |

- |    |       |    |      |
|----|-------|----|------|
| 22 | 刑部正典  | 佐野 | 佐西中  |
| 23 | 鹿沼隆重郎 | 佐野 | 佐南中  |
| 24 | 飯塚榮四郎 | 佐野 | 佐北中  |
| 25 | 柿沼政一  | 安蘇 | 田沼東中 |
| 26 | 長谷川顕三 | 足利 | 毛野中  |
| 27 | 谷口寅次郎 | 足尾 | 足尾中  |

○転出によるもの

(小学校長等へ)(15名)

- |    |       |    |       |
|----|-------|----|-------|
| 1  | 高柳久   | 宇  | 瑞穂野中  |
| 2  | 金田梧楼  | 河  | 田原中   |
| 3  | 山崎勝二  | 河  | 明治中   |
| 4  | 沼尾陸   | 上  | 豊岡中   |
| 5  | 弓手弘二  | 上  | 小来川中  |
| 6  | 川田孝治  | 上  | 藤原横川中 |
| 7  | 関口善勝  | 上  | 日向中   |
| 8  | 岡安宏   | 上  | 湯西川中  |
| 9  | 大根口薫  | 芳  | 長沼中   |
| 10 | 米山滋夫  | 栃  | 皆川中   |
| 11 | 飯田弘   | 下  | 野木中   |
| 12 | 初答院信雄 | 那北 | 須賀川中  |
| 13 | 益子茂寿  | 那北 | 伊王野中  |
| 14 | 室井古徳  | 那北 | 三島中   |
| 15 | 国井未子男 | 足利 | 協和中   |

栃木県中学校長会永年勤続表彰者

5年勤続(9名)

- |   |       |    |      |
|---|-------|----|------|
| 1 | 川島平八郎 | 宇  | 宮の原中 |
| 2 | 小川禎三  | 宇  | 陽南中  |
| 3 | 宮沢正夫  | 上  | 板荷中  |
| 4 | 井上勇雄  | 上  | 南摩中  |
| 5 | 茅島治男  | 上  | 永野中  |
| 6 | 縫田新三郎 | 下  | 藤岡二中 |
| 7 | 坂本博   | 塩  | 箒根中  |
| 8 | 青柳勇進  | 那南 | 大内中  |
| 9 | 大嶋広雄  | 足利 | 坂西中  |

- |    |       |    |      |
|----|-------|----|------|
| 5  | 仲島信一  | 芳  | 久下田中 |
| 6  | 渡辺万作  | 芳  | 益子中  |
| 7  | 森田守一  | 栃  | 栃西中  |
| 8  | 山中福一  | 小山 | 桑中   |
| 9  | 岸正一   | 下  | 都賀中  |
| 10 | 新井次郎  | 下  | 岩舟中  |
| 11 | 津浦敏恵  | 塩  | 上江川中 |
| 12 | 大宮司克夫 | 那北 | 須賀川中 |
| 13 | 那司正明  | 那北 | 高久中  |
| 14 | 小竹正美  | 佐  | 佐野西中 |
| 15 | 神山邦夫  | 安佐 | 田沼東中 |

15年勤続(3名)

- |   |       |    |      |
|---|-------|----|------|
| 1 | 白井弘典  | 栃  | 栃東中  |
| 2 | 金森俊男  | 那北 | 佐久山中 |
| 3 | 村椋清三郎 | 安  | 葛生中  |

10年勤続(15名)

- |   |      |   |      |
|---|------|---|------|
| 1 | 渡辺太一 | 上 | 西方中  |
| 2 | 桑島得二 | 上 | 日光東中 |
| 3 | 菅谷重夫 | 芳 | 真岡中  |
| 4 | 榎戸隆夫 | 芳 | 中村中  |

20年, 25年勤続なし

專 門 部 員

( 調 査 部 )

宇	栗原和友	清原中
河	塚原茂	南河内中
上	沼尾省治	落合中
芳	仲島信一	久下田中
栃	森田守一	栃西中
小	平岡芳太郎	小山二中
下	新井次郎	岩舟中
塩	菅又隆典	高根沢中
那北	人見栄	西那須野中
那南	青柳勇進	大内中
佐	小高博	城東中
安	藤掛良一	田沼西中
足		
足尾	谷口信二	足尾中

( 研 修 部 )

宇	飯田弘	陽北中
河	渡辺正利	古里中
上	谷中嘉雄	清州中
芳	渡辺万作	益子中
栃	田村哲夫	皆川中
小	長浜静	間々田中
下	瀬下吉雄	野木中
塩	兼崎才助	片岡中
那北	平野誠	東那須野中
那南	大橋敏郎	下江川中

佐	野城博	吾妻中
安	福地政男	常盤中

足利

( 編 集 部 )

宇	小林茂	姿川中
河	吉高神三郎	田原中
上	桑島得二	日光東中
芳	町井勝位	逆川中
栃	松本義	東陽中
小	大貫昇	絹中
下	榆木恒	稲葉中
塩	太田友一	泉中
那北	渋井敏郎	東陽中
那南	大野豊寿	七合中
佐	池沢嘉夫	佐野北中
安	村樫清三郎	葛生中
足	中村治夫	促利二中

( 職 員 対 策 部 )

宇	飯野昭	城山中
河	増渕益三	上河内中
上	渡辺太一	西方中
芳	荒井光三	大内中
栃	伏木友男	吹上中
小	諸沢鶴夫	美田中
下	縫田新三郎	藤岡二中
塩	飯島寿太郎	大宮中

那北	菊池武	塩原中
那南	清水才治	荒川中
佐	岩島喜四郎	佐野南中
安	藤掛良一	田沼西中
足利		

( 修 学 旅 行 部 )

宇	上野政司	陽東中
河	荒川正男	明治中
上	栗原光男	鹿北中
芳	菅谷重夫	真岡中
栃	橋川均	寺尾中
小	山中福一	桑中
下	石川太四郎	南犬飼中
塩	和気政夫	船生中
那北	金沢久衛	黒羽中
那南	豊田与一郎	小川中
佐	池沢嘉夫	佐野北中
安	神山邦夫	田沼東中
足	大嶋広雄	坂西中

( 福 祉 厚 生 部 )

宇	小川禎三	陽南中
河	上野逸郎	上三川中
上	木村光男	川治中

芳	関興	中川中
栃	大塚清	寺尾中
小	平野勇	豊田中
下	猪野富夫	壬生中
塩	津浦敏恵	上江川中
那北	糺成不二雄	湯津上中
那南	高野末吉	大山田中
佐	尾花悟	赤見中
安	神山邦夫	田沼東中
足利	小林俊茂	山辺中

( 進 路 対 策 部 )

宇	篠原俊雄	一条中
河	鈴木元次郎	本郷中
上	平沢勉	鹿西中
芳	横田正一	山前中
栃	森田守一	栃西中
小	筑後清寿	大谷中
下	岸正一	都賀中
塩	五月女正男	玉生中
那北	菊地玄	金田南中
那南	大谷広志	烏山中
佐	小竹正美	佐野西中
安	村樫清三郎	葛生中
足		

## 栃木県中学校長会規約

### 第1章 名称及事務所

- 第1条 本会は、栃木県中学校長会と称する。
- 第2条 本会は、事務所を会長の指定するところにおく。

### 第2章 目的及事業

- 第3条 本会は、中学校教育の振興を図ることを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。
- 1 中学校教育の調査研究
  - 2 教育振興に関する運動
  - 3 その他、必要なる事項

### 第3章 組織

- 第5条 本会は県下中学校長をもって組織する。

### 第4章 役員

- 第6条 本会に左の役員を置く。
- 会長 1名  
副会長 4名  
理事 若干名  
協議員 若干名  
監事 3名
- 第7条 前条の役員の任務は、左の通りとする。
- 1 会長は、本会を代表して会務を統括する。

- 1 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。
  - 1 理事は、理事会協議会に出席し会務を審議する。
  - 1 監事は会計事務の監査にあたる。
- 第8条 役員は、左の方法で選出する。
- 1 会長、副会長、監事は、協議員会で推薦し総会で承認する。
  - 2 理事は、各郡市中学校長会長及び事務局長、事務局各部長、各専門部長をあてる。
  - 3 協議員は、四校につき1名の割合で各郡市中学校長会が互選する。

- 第9条 役員の任期は1か年とし再任を妨げない。但し補欠役員の任期はその残任期間とする。

### 第5章 会議

- 第10条 本会の会議は、左の通りとし会長が招集する。
- 1 総会（定期総会は毎年5月に行なう。）
  - 1 協議員会
  - 1 理事会
- 第11条 前条会議の任務は、左の通りとする。
- 1 総会は、本会の最高決議機関で事業計画、予算決算その他重要事項を議決する。
  - 2 協議員会は、総会に次ぐ決議機関で必要事項について審議する。
  - 3 理事会は、総会、協議員会で決議された方針に従い会務を執行する。

- 第12条 すべての会議は定員の過半数で成立し、議決は出席者の多数決による。

### 第6章 事務局・専門部

- 第13条 本会は第4条の事業を行なうため左の事務局・専門部を置く。
- 1 事務局は庶務・会計部を置く。
  - 2 専門部は調査・研修・編集・職員対策・進路対策・修学旅行・福利厚生とする。
- 第14条 事務局には局員、部には部員若干名を置き、左の方法で選出する。
- 1 事務局員は、会長の委嘱による。
  - 2 編集部は、各部の代表をあてる。
  - 3 その他の部は、理事会にはかり会長がこれを委嘱する。
- 第15条 事務局には局長、次長各部員を、専門部には部員の互選により正副部長を置く。

## 第7章 会計

- 第16条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもって当てる。
- 第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

### 付 則

- 第18条 規約の改正は、総会の決議により運営に必要な細則は協議員会で定める。
- 第19条 本規約は、本会が設立された昭和20年12月12日から施行する。
- 昭和38年5月4日改正  
昭和43年5月 日改正  
昭和44年5月 日改正  
昭和48年5月12日改正

## 栃木県小中学校長慶弔会規定

- 第1条 この会は栃木県小中学校長慶弔会といい、事務所を会長所在の学校に置く。
- 第2条 この会は栃木県小学校長会会員、栃木県中学校長会会員をもって組織する。
- 第3条 この会は一定の会費によって、会員相互の共栄互助をはかることを目的とする。
- 第4条 この会の目的を達成するため次のことを行なう。
- 1 会員が退会したときは餞別金15,000円を贈る。
  - 2 会員が死亡したときは弔慰金100,000円と花輪1基（時価相当）を贈る。

- 3 会員が1か月以上に亘る傷病休暇の場合は見舞金5,000円を贈る。
  - 4 会員の配偶者が死亡した場合は弔慰金20,000円を贈る。
  - 5 会員の永年勤続者の表彰を行なう。（表彰内規は別に定める。）
  - 6 県以上の表彰を受けた場合には記念品（3,000円程度）を贈る。
  - 7 その他必要ある場合は協議の上措置する。
- 第5条 この会に次の役員をおく。役員の任期は1か年とする。



- 1. 会長 1名
- 2. 副会長 1名
- 3. 理事 若干名
- 4. 評議員 若干名
- 5. 庶務・会計 4名
- 6. 会計監査 4名

第6条 会費は会員1人当たり3,000円とする。

第7条 会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第8条 この規定の改正は評議員会によって決定し、各校長会に報告するものとする。

第9条 この会の運営は次のとおり定める。

- 1. 会務は小中学校1年交替で当たる。
- 2. 会長、副会長は、小中学校校長会長が1年交替で当たる。
- 3. 理事は、小中学校校長会の理事が当たる。
- 4. 評議員は小学校校長会の評議員と中学校校長会の協議員が当たる。

5. 庶務会計は、会務担当の校長会より選出する。

6. 会計監査は、小中学校校長会の監査員が当たる。

付 則

1. この規定は昭和38年1月1日より施行する。

2. 昭和41年4月1日一部改正

3. 昭和48年4月1日一部改正

第4条表彰内規

1. 勤続5年、10年、15年、20年25年目に達した場合

2. 小中校の勤続は通算する。

3. 会員から教育関係の他の職に転じた場合の期間は通算し、会員に復した後に表彰する。

4. 記念品代は当分の間2,000円程度とする。

5. 表彰状・筒は各小中学校校長会で負担する。

関プロ中学校長研究協議会協議題（新潟）

昭和51年6月16日～18日

研究協議題

(1) 全体会

「教育の転換期における中学校教育の特質・役割の究明と実践方策」

～ 豊かな人間性の育成を目指して～

（提案 新潟・栃木・群馬）

(2) 分科会

分科会	協 議 題	提 案	司 会
第1分科会	「豊かな人間性の育成」からみた中学校教育の問題点と、改善のための学校経営をどのようにしたらよいか。	茨城 新潟	茨城 新潟
第2分科会	「豊かな人間性の育成」を意図しての学校5日制の意義と実施上の問題ならびにその対策をどうしたらよいか。	山梨 新潟	山梨 新潟
第3分科会	これからの中学校教育課程の編成と実施はいかにあるべきか。	東京 新潟	東京 新潟
第4分科会	中学校における部活動の役割とその位置づけをどのようにしたらよいか。	埼玉 新潟	埼玉 新潟
第5分科会	中学校生徒の進路志望の現状に対応する進路指導はどうあればよいか。	栃木 新潟	栃木 新潟
第6分科会	これからの中学校教育における望ましい施設・設備の基準、教職員定数等はいかにあるべきか。	神奈川 新潟	神奈川 新潟
第7分科会	教職員の資質を向上させ、指導力を高めるにはどのような方策をたてたらよいか。	千葉 新潟	千葉 新潟
第8分科会	過疎地・へき地の学校経営の問題点とその改善はどのようにしたらよいか。	長野 新潟	長野 新潟
第9分科会	現代の社会環境における生徒指導上の問題点とその対策はどのようにしたらよいか。	群馬 新潟	群馬 新潟